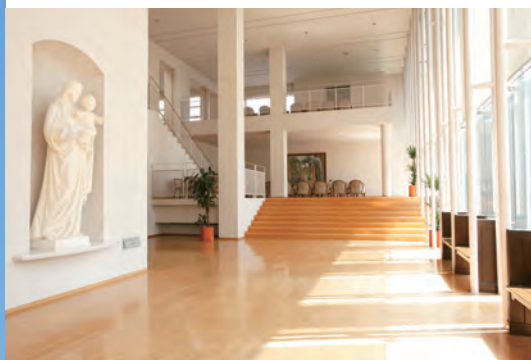




キャンパス通信



巻頭言／1

コロナウイルス禍を経た
私たちがめざすもの

コロナウイルス禍を経た
私たちがめざすもの／2

News／7

Report／9

各部局から／11

行事予定／12

編集後記／13





学長

中村 久美

コロナウイルス禍を経た私たちがめざすもの

私たちのコロナウイルス対応は、2020年3月4日(水)、「新型コロナウイルス対策本部会議」を立ち上げることから始まりました。その後4月15日(水)よりオンライン授業のみでスタートした2020年度の大学授業は、本原稿を書いている時点で前期15回のうちの1/3を残し、100%オンラインによる「対応期間A」から、ごく一部の対面授業を開く「対応期間B」を経て、条件付きで対面授業に戻していく「対応期間B'」へと移行しようとしています。この間の対応から、改めて大学教育に求められるものが見えてきました。

新型コロナウイルスに関する連日の報道では、積み上げられていく国内の感染者数や感染拡大の防止対策のみならず、経済活動への影響、消費生活や医療・福祉現場での混乱、翻弄される世界各国の動向など、さまざまな関連情報があふれています。そもそも“グローバル”の“果実”が一転した今回の世界的な災厄は、個々の人間に社会のあり方、世界との向き合い方から、一人ひとりの生活様式まで、再考を促すこととなりました。あふれる情報を整理し、その背景や潜在する課題を見極め、自分の価値観の形成や行動の仕方に落とし込む一連の「考える作業」は、コロナウイルス禍中の、そして終息したあとの私たちが生きていくうえで、常に繰り返していかなければならない「作業」であると痛感します。まさに大学教育で指摘される「考える力」が求められるといえるでしょう。大学はこれに応えねばなりません。

オンライン授業により、学生は自分で学ぶべきことや自分にとっての最適解の学び方を自分で考える経験をしました。それはくしくも中央教育審議会答申のめざす「学習者本位の教育への転換」の第一歩ともいえるでしょう。この不幸中の幸いにして学生が得た経験知と、教員の試行錯誤の経験知を、これからの本学教育に生かさない手はありません。学生自身のペースで学べるオンライン授業の良さに、互いの反応を見ながら直接意見を交わせる対面授業の良さを融合させ、学生の「考える力」を伸ばす教育を展開していきたいと考えます。

新型コロナウイルスへの対応と支援制度

新型コロナウイルス感染症の長期化は大学にも大きな影響をおよぼし、直接的・間接的にそれらの影響を受けておられる学生や関係者の皆さまにお見舞い申し上げます。

本学では、学生の健康と安全を最優先に考え、感染拡大防止のため2020年4月の入学式を中止するとともに、4月15日(水)からオンラインによる授業を開始しました。緊急事態宣言が発令された後は、本学も入構制限を行うとともに、他大学に先駆け、学生に対してオンライン授業に関するアンケート調査を行い、学生の声を汲み取ってよりよい授業の提供に取り組み、新聞各紙にも取り上げられました。

また、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、家計急変やアルバイト収入の減少で、経済的に困窮されている本学の在学生に対して学業継続を援助するため次の緊急支援策を講じました。

(1) オンライン授業に係る緊急支援金

オンライン授業を受けるための経費の一部や通信費等に対応するための緊急支援金として全学生に対して一人あたり30,000円を支給しました。

(2) 新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急支援奨学金

新型コロナの影響により家計が急変し修学継続への支援が必要な学生に対して一人あたり20万円の奨学金を支給しました。

その他にも、同窓会マリアンスカラシップ奨学金、保護者会特別援助奨学金、文部科学省「学びの継続」のための学生支援緊急

給付金など、さまざまな援助をいただき経済支援を行っています。

京都府のガイドラインに基づき、本学では「新型コロナウイルス感染拡大予防マニュアル」を作成し感染防止を徹底しました。3密を避けるため、マスクの着用、消毒・手洗いの励行、換気の徹底はもとより、飛沫感染防止のため、食堂、事務室、図書館等にアクリル板等を設置し、席と席の間隔を空けて1教室当たりの収容人数を制限する等、教室配置にも配慮しています。オンライン授業に備えて、無料貸出パソコンの台数を増強し、学内各所にオンライン授業用学習スペース「Study Spot」を整備しました。学生寮では、二人部屋の学生に対して、近隣の学生マンションの一部を本学が借り上げ、費用の追加負担なく一人部屋に移動していただけるよう配慮も行いました。

しかしながら、平常時は1日に1,000人規模の学生が集まる大学の特性を考慮すると、コロナ禍で大学における教育活動を以前と同じ状況に戻すことは困難を極め、感染防止策を講じた上での活動に制限せざるを得ないのが実情です。今後とも感染拡大防止を徹底しつつ、教育の継続に努めてまいりますので、学生や保護者の皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

(事務局長 榎田 美起子)



情報演習室



編集工房



授業開始前の検温



食堂カウンター



食堂では1席ずつ仕切り



Study Spot

オンライン授業に関する学生アンケート実施について

2020年度前期は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月15日(水)よりオンラインで授業を開始することになりました。教員、学生ともに手探りで始めたオンライン授業でしたので、学生の皆さんがどのようにオンライン授業に取り組んでいるのか、またどのようなことに不安を感じ、困っているのかを把握する必要があると考え、授業開始から約2週間後、本学教務委員会は全学年の学部生を対象とした「オンライン授業に関するアンケート調査」を実施しました。

695名の学部生から回答が寄せられ、オンライン授業で困っていること、逆に良かったこと等、学生のオンライン授業に対するさまざまな思いを聞くことができました。そして、オンライン授業という授業スタイルでも、学生たちがより良い深い学びができるようアンケート結果から改善点を見出し、調査結果と合わせて、直ちに本学教職員、調査に協力していただいた学生の皆さんと共有しました。

アンケート結果からは、オンライン授業におけるコンピュータの操作の難しさ、質問のしにくさ、課題の多さなど、ネガティブな意見もみられた一方で、複数のポジティブな側面も見出されました。例えば、対面授業とは異なり、何度も授業資料(動画や音声)を聞き直すことができ、復習につながっていること、わからないことがあっ

ても途中で調べる時間がとれること、自分で考えたり振り返ったりする機会が多くなったこと等です。また、語学の授業に関して、「オンラインでは人目を気にせず発音練習ができる」というメリットを挙げていた学生もいました。

さらに、心理学科の社会調査系ゼミに所属する学生が調査結果を解釈し、学生の目線からオンライン授業の改善点について意見をまとめてくれました。私たちが気づかなかった視点も多くあり、教員側のちょっとした教材の工夫や質問対応次第で、授業の質を高められる可能性があることも見出されました。

学生・教員ともにオンライン授業に慣れない中で、さまざまな困難さやもどかしさを感じながら授業を進めてきましたが、オンライン授業の意外な効用や今後の対面授業でも生かすことができるであろう肯定的な気づきも多くあり、また「大学での学びとは?」「学びをどう評価するのか」について改めて考えるきっかけを与えられました。なお、7月には前期の総括として、2回目のオンライン授業アンケートを実施しました。私たちがこの期間に得たさまざまな貴重な経験が今後の授業や学生の学びに還元されることを期待したいと思います。(教務委員会)

ミニND fes開催決定!!～ココロにソーシャルディスタンスなんて必要ない～

ND祭実行委員会では2020年度ND祭の開催に向け準備を進めてきましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を踏まえ、従来通りの開催は難しいと考え、大変残念ですが今年度は中止することになりました。

しかし春から大学内でのイベントが全くない状況が続き、授業も普段の対面形式ではなくオンラインによる講義になるなど、大学に来る機会がなく、特に今年、入学した1年次生にとっては不安な日々が続いたことと思います。実際に、「4月から大学に来ていない」「友だちができるか不安」といった声を1年次生から聞きました。こういった声から、私たちND祭実行委員会は、人に会う機会が少ない今だからこそ、オンラインではなく、対面形式にこだわりのND祭の代わりとなるイベントができないか模索してきました。

そして、ついに『ミニND fes』～ココロの三密会～と題した交流イベントを10月24日(土)に開催することが決定しました。新型コロナウイルス感染対策を踏まえ、今まで交流できなかった分を取り戻せるぐらいND学生みんなで盛り上げられるイベント(豪華賞品があたるビンゴ大会やゲーム、クラブ発表、先輩とのおしゃべり

ブースなど)を企画しています。

この交流イベントを通して参加したみんなが今後の学生生活をより楽しめるよう一つのきっかけになればと思います。

今年はND祭実行委員会に1年次生13名が入部してくれたこともあり総勢55名となりました。例年のND祭とは違う新たな企画に向けて準備を進めていく中で、全員揃っての活動はなかなかできず大変な部分もありますが、部員それぞれが今できることを全力で取り組んでいます。

最後になりましたが、当初は学生委員会において対面形式でのイベントそのものの開催に反対があった中でも、私たち実行委員の意見に耳を傾けて意見交換の場を設けていただきました。こうした過程を経て、このたびのイベント開催につながることができ、心から感謝申し上げます。このことを心に留め、感謝の気持ちを忘れずに当日に向けて実行委員一同頑張っていきますので、ぜひ皆さん遊びにきてください!!

(ND祭実行委員長 心理学科 3年次生 染川 美颯)

オンライン授業に関する本学の取り組み

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月8日(水)授業開始予定から1週間繰り下げ、4月15日(水)よりオンライン授業を、6月10日(水)から一部対面授業を開始しました。オンライン授業では学修支援システム(manaba)での資料掲載・課題提示・回収等、PowerPointと音声・動画によるオンデマンド授業をベースとし、各回授業の特性に応じ、担当教員の判断でzoom、teams、stream等による同時双方向授業を行いました。オンライン授業をとおり、学生は配信された資料や情報を材料に自分で考え、自分の知識や技能を高める作業、いわば自分の力で学ぶことをしてきました。教員は、オンライン授業の作成に悪戦苦闘しつつも、その有効性を大いに認識しました。

昨年10月に教学マネジメント会議がまとめた2021年度からの新カリキュラム改革方針「『対話』から始まるND教育」では、3つの柱の1つに「学生の学修量と教員の負担を考慮し開講科目数を適正な範囲とする」ことを挙げ、PBLや反転授業など、ICT活用による効率的な学びの実現を重要な課題と位置づけています。

5月上旬、7月中旬に実施したオンライン授業に関するアンケート(学生対象)では不便さや進めにくさ、もどかしさは抱えつ

つも、必ずしもネガティブな側面だけではなく、ポジティブな側面も複数見出されました。この結果をふまえ、単に遠隔で授業の円滑な実施を行うにとどまらず、授業のあり方そのものの変革に資することを見据え、以下の計画を実施予定です。

1) 学生の自宅学習におけるIT環境整備に対する支援

ノートPC等の貸出を実施・拡充し、学生の学修環境を保証します。

2) 教員への遠隔授業支援体制の構築

教育センター・システム管理課・教務課が協同して「授業におけるデジタル・トランスフォーメーション推進体制」を2020年度後期を目標に構築し、ICT技術を活用した授業デザイン・教材作成及び学生支援のための教職員研修や情報交流機会の提供、情報活用カフェ(既存)の活性化などにより授業のあり方改革を推進します。

3) 授業コンテンツ充実化のための基盤整備

授業充実化のための教員への技術的支援および備品等の整備を行います。

(教務課)

保護者様より消毒液の寄付をいただきました

7月24日(金)、在学生の保護者様より消毒液の寄付をいただきました。新型コロナウイルス感染症の拡大が収まらず不安定な時期が続いている中、感染リスクを抑えるべくキャンパス内の各所に設置させていただくのはもちろんのこと、特に集団生活の場である学生寮では、安心して寮生活を送ることができるよう大切

に使わせていただき、より一層の感染防止に努めます。心より感謝を申し上げます。



コロナ禍で感じたこと

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、例年行われる入学式や新入生オリエンテーションが開催されずに始まった学生生活。4月からの約半年間、ND生がどのような心境で日々を過ごしていたのかをエッセイに綴ってもらいました。



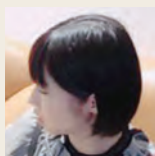
オンライン授業を受けて感じたこと

国際日本文化学科1年次生 岩本ほのか
(フール学院高等学校出身)

オンライン授業を受けて思ったことは、二つある。一つは「自律心が養われる」ということである。オンライン授業の良いところに、自分の好きな時に好きなだけ見返すことができる授業が多いという点がある。一方で、対面ならではの先生方による雑談の中にある知識を聞けず、授業のみで精神的に少々辛いものがある。これらの要因が重なり、「自律心」が揺らぎやすくなった。「自律」と「自立」は似ているようで異なる。「自律」は「自分を律すること」であり、「自立」するにはなくてはならないものである。オンライン期間ではこの力が試された。家という自分の領域にいと、どうしても良く言えばリラックスした状態、悪く言えば怠けた状態になる。すると、授

業に集中できない。その結果、色々なミスをしてしまう。そこで考えたのが「タスク管理」だ。スマホアプリを用いて、しなければならぬことを徹底的に管理した。その結果、頭の中でタスクが整理されて時間を有効に使うことができるようになった。空いた時間で読書をしたり、趣味にあてたりと、充実した「お家時間」を過ごすことができた。

二つ目は、対面授業の尊さを実感したことだ。もともとマイペースなところがあり、人見知りでもあるので大学での講義が不安だった。そんな自分にはオンライン授業がとても合っていると最初は思っていた。しかし、オンライン授業で前期のほとんどを終えた今、対面授業になってほしいと思っている。教室で先生方の講義を聞き、質疑をしながら理解を深め、講義が終われば友だちとご飯を食べながらお喋りする、こういった当たり前のことができなくなってはじめて学校で過ごす時間も好きだったことに気づき、今は対面授業を心待ちにしている。このオンライン期間、自粛期間中に大学生活でやりたかったことを以前の日常に戻ったら思いっきり楽しもうと思う。



予想外だった大学自粛生活

国際日本文化学科1年次生 高木えみ
(京都府立東宇治高校出身)

4月に出された緊急事態宣言の影響で大学に通えない日々が続いている。最初はもちろん行く気満々で、新しく始まる大学生活に不安を抱えると同時にわくわく感が止まらなかった。しかし、そんな思いもむなしく入学式は行われず、履修登録ということもよくわからないまま、4月15日からオンライン授業が始まった。最初は授業を受けるのに必死で自覚がなかったが、圧倒的に運動量が足りてないことに気がついた。授業を受けているときは椅子に座りっぱなし、授業後の課題をしているときも座りっぱなしで、1日中ほとんど動いていない自分がいた。それに気づいてラジオ体操を1日に1回することにしたが、5日ほどで飽きてしまった。何をしても集中力や継続力が無くなっているように感じた。外に出ないので日光に当たる機会がなく、どんどん体力がなくなっていっているような気がした。

そして今もっとも不安なことは、大学で友人ができるのかということだ。基礎演習の授業ではLINEのグループを作ったので、そこから趣味の合う人と個人でLINEをして少しは親しくなれたものの、実際に会ったことはなく、顔の見えない関係はある意味どこか不自然だ。大学でいるんな人と仲良くなって思い切り楽しもうと思っていたのに、これではあまりにさびしい。ただ、オンライン授業は自分のペースで受けることができるし、大学に通学しなくていいので授業の直前まで寝られるし、お化粧なしでも受けることができる。慣れてしまえば、とても便利だ。

しかし、自宅で受けるのでいまひとつ授業の臨場感がなく、真剣味が出にくい。この生活に慣れてしまっ、正直、もう大学に通うのは面倒くさいという気持ちも大きい。いつまでたっても大学に行けないのも嫌だ。高校時代に思い描いていたような、サークルに入ったり、友だちとたくさん遊んだりといったようなことは今のところ一つも実現できていない。自粛期間だから仕方ないとも言えるが、私はこの3ヶ月間いったい何をして過ごしてきたのだろうか。ものすごい早さで過ぎ去っていったが、結局のところ何もせずにいただけだったような気がする。



コロナ時間を過ごして

国際日本文化学科2年次生 井原菜々子
(愛媛県立三島高等学校出身)

大学生の春。それは、充実させなければならない時間。行動したいと感じさせる時間。そして、人生において、最も自由な選択がある時間——のはずだ。

私はこの2月、お洒落な本屋さんで京都の旅行本を買った。充実した春が来ると期待を込めて。ところがどうしたのか、その旅行本を持ってどこへ出掛けることはなく、本は本棚に眠ったままである。家で読むことはあっても、外で、太陽の下で、読むことは叶っていない。マスクを外して、旅行本を持って、気兼ねなく出かけられる日が来ることを願っている。

あることに30分、もう一つに9時間。一体これは、何の数字かというと、30分は、1日のうち外にいる時間。9時間は、オンライン授業を受けるためにパソコンと向き合う時間である。目は痛いし、肩がもの凄く凝る。同じ風景で変わらない毎日。1週間、1ヶ月が今までの人生の中で、一番早かった。

この状況下で、唯一良かったことは、パソコンのスキルが上がったことだろうか。オンラインでつながることができる世の中でほんとうによかった。Zoomの機能を用いて、1年次生のためにオンライン相談会を開催することができてよかった。私も、友だちとTeamsでつながり、課題のわからないところや疑問を一緒に解決している。

しかし、時間は過ぎてゆく。みんなと同じスピードで、変わらずに。後期にはふつうにキャンパスで授業が受けられるだろう。京都の旅行本は、秋の散策まで取っておこう。今過ごしている時間を思い出して、「あの時はたいへんだっただけ、ある意味楽しかったね」と言えるように、今日もパソコン画面に向かって、課題に取り組んでいる。

KBS京都 海平和アナウンサーとのトーク(オンライン授業)

国際日本文化学科の授業「スピーチの基礎」では、授業の前半に、学生たちに毎年大好評のKBS京都の海平和アナウンサーをゲストにお迎えし、学生たちとトーク番組を作っています。番組といっても実際に放送するわけではありません。多様な準備、本番を通して、学生たちは多くのことを学び、スキルを向上させていくのです。

しかし、本年はコロナ禍のため、いつものように教室(対面)で実施することができませんでした。それに関わらず、学生たちはたくましく、オンライン上でであっても自分たちで考え、メンバーと討

議・練習をし、現役のアナウンサーを前に全員堂々と司会や質問等を行いました。

「勉強になることばかりだった。」「想像とは違い、本音で話してくださり、身近な先輩のように感じた。」「素敵な笑顔、いつも前向きな考え方であった。こうありがたい。」このように、オンライン上での授業であっても、内容、話し方、考え方等、学生たちにとって、たいへん有意義な時間となったようです。

(国際日本文化学科 准教授 平野美保)



海平アナと学生司会者



KBS京都 海平和アナウンサー



海平アナと質問をする学生たち

「ようこそ国際日本文化学科へ!オンライン交流会」実施報告

2020年6月25日(木)に、1年次生から4年次生の学年を超えた「ようこそ国際日本文化学科へ!オンライン交流会」を実施しました。入学式やフレッシュマンセミナーなど、新入生歓迎のイベントが軒並み中止になり、通常の大学生活を送ることができない1年次生に対し、距離の近い本学科ならではの応援ができないかと考えたためです。

1年次生に楽しく、かつ有意義な時間にしていただきたいと、2～4年次生有志が、何度もzoom等で集まるなどして準備を進めてきました。1年次生参加者は9名。事前にいただいた質問に2～4年次生が答えていきました。事後アンケートでは、「まだ一度も通学できておらず、少し不安が軽くなった」「先輩方が優しい人たちで楽しかった!」など、たいへん嬉しいお言葉をいただきました。

「離れていても繋がっている」、場所や年齢、趣味や学びは人によって異なりますが、改めてその繋がり的重要性を、私たち上級生も共に感じることができました。

(国際日本文化学科4年次生 米澤真樺)



新任教員紹介



英語英文学科
講師

木島 菜菜子

2020年4月より国際言語文化学部英語英文学科に着任いたしました木島(このしま)菜菜子と申します。前任校では観光学系の学部にも所属していました。専門は19世紀のイギリス小説で、特にチャールズ・ディケンズやジョージ・エリオットの作品を中心に研究してきました。

コロナ・パンデミックの影響により、英語英文学科では前期は原則オンライン授業となりましたが、学生の皆さんの前向きな学習意欲には日々刺激を受けています。授業の課題への取り組みや講義動画への反応、また、オンタイム授業での皆さんとのやりとりを通して、私も日々学ぶことばかりです。

経験不足で至らない点も多々あるかと存じますが、この素晴らしい大学の教育、研究活動に貢献できるよう尽力して参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



英語英文学科
講師

Lyle De Souza

My name is Lyle De Souza. I am from London, England. I joined the Department of English Language & Literature in April 2020. I spent the last three years doing research at Kyoto University. Previously, I have researched at the University of London, Harvard, and UBC. My research on Japanese diaspora literature explores identity in various novels. Famous authors include Kazuo Ishiguro who won the Nobel Prize for Literature in 2017. I love Kyoto and Japan, so I also enjoy teaching Japan Studies. I am glad to join you all and I look forward to spending many happy years here.



国際日本文化学科
教授

河野 有時

4月に国際言語文化学部国際日本文化学科に着任いたしました河野有時と申します。私は大阪生まれの、奈良育ちなのですが、学生時代を仙台で過ごし、その後はずっと東京で勤めておりましたので、この地にご縁がありましたことを本当にうれしく思っています。

専門は日本近代文学で、近代短歌を中心に研究しています。「近代」という語と、「短歌」という語は、簡単には引ついたりできないはずでしたが、この伝統的な詩形には近代社会の中で生き残っていくために、いろいろな工夫が試みられました。それをことばや表現から考えています。

この世情で、いろいろな距離が求められますが、皆さんと早くお近づきになりたいものです。どうぞよろしくお願いいたします。



こども教育学科
講師

高田 佳孝

2020年4月より、現代人間学部こども教育学科に着任いたしました高田佳孝と申します。本学では、体育科教育に関わる授業を担当させていただきます。以前も保育士資格、幼稚園教諭、小学校教諭の資格・免許取得に関わる短期大学に所属しておりましたので、授業内容については少し安心しております。ゼミや卒業論文指導に関しては不安でありながらも、皆さまと関われる喜びの方が上回っており、たいへん楽しみにしております。

このコロナ禍で思うように対面授業ができないため、未だ皆さまにお会いできていない状況ですが、少しでも私の今までの経験や研究を本学の教育に生かせるよう、努力してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

教員著書紹介



国際日本文化学科 教授 **鷲見 朗子**

編著 鷲見朗子・著 依田純和・福田義昭・竹田敏之・富永正人
『例文で学ぶアラビア語単語集』 大修館書店 2019年

私は本学の共通教育科目「アラビア語」(後期)を担当しています。アラビア語は6つしかない国連の公用語の1つに数えられる、世界ではメジャーな言語です。

さて本書は、そんなアラビア語のコミュニケーション力を磨きたい方のために執筆しました。豊富な会話例と例文・イラストで学べる初級から中級者向けの単語集です。身の回りから経済・宗教・ITまで幅広い分野の2500語を収録しています。スマホやタブレット端末によって、ネイティブスピーカーの音声による単語・短文を学べるフラッシュカードにもアクセスできます。

本書は2014～2018年度科学研究費補助金採択研究「アラビア語習得における学習動機づけを高める指導方法の策定とその効果に関する研究」(研究代表者 鷲見朗子)の成果の一環として刊行されました。

2020年度科研費採択について

科学研究費助成事業(科研費)は、人文学・社会科学から自然科学までの分野にわたる研究者の自由な発想に基づく研究を発展させることを目的とする国の助成制度です。

2020年度、本学からは新たに8件の研究が採択されました(この他、本稿執筆時点で、審査中のものが1件あり)。昨年度以前からの継続研究と合わせて現在29件の研究が行われています。また、これらとは別に本学の教員が「研究分担者」として共同研究を行っている課題が24件あります。

2019年度、本学の科研費の配分額は全国の私立大学で191位でした(「教育学術新聞」令和元年12月4日付(第2791号)より)。順位の近い大学を見ると、本学より教員数や学部数が多い大学が並んでいます。

教育が中心の本学ですが、科研費の状況からもわかるように研究も盛んにおこなわれています。研究成果は、学部および研究科でのより質の高い教育の実現のため生かされています。

(研究・情報推進課)

2020年度の新規採択課題(本学教員が研究代表者)

所属・職名	研究代表者氏名	研究種目	研究課題名
英語英文学科 講師	木島 菜菜子	若手研究	ディケンズと風景
国際日本文化学科 教授	朱 鳳	基盤研究(C)	明治維新期における漢字翻訳語の歴史的・言語的構造に関する多角的研究
学長・福祉生活デザイン学科 教授	中村 久美	基盤研究(C)	人生100年時代における高齢期の住生活管理に関する研究
福祉生活デザイン学科 講師	安川 涼子	基盤研究(C)	電界紡糸法とインクジェット法による再生繊維の持続可能型染色加工
福祉生活デザイン学科 講師	矢島 雅子	基盤研究(C)	障害者の親亡き後を見据えた地域生活支援拠点に関する研究
こども教育学科 准教授	太田 容次	基盤研究(C)	AIを活用した日本語指導等が必要な子供の困難さ理解の為に教員支援システム開発
こども教育学科 准教授	大西 慎也	若手研究	社会科授業が苦手な小学校教師の資質・能力育成プログラム開発：授業観形成に着目して
こども教育学科 准教授	小川 博士	若手研究	STEMPCKの構築を目指す我が国のSTEM-PDの構成要素の導出

2020年度前期 1年次生必修科目「ノートルダム学」実施報告

「ノートルダム学」の授業が今年度前期も、自校教育・キャリア教育・日本伝統文化を軸に1年次生(および編入生)対象に行われました。今回はオンライン授業が主となりましたが、内容を端的に説明した動画や、紙芝居風などの工夫を凝らした教材が提供されました。

今年度、新しく加わった授業は中村久美学長による「カトリックの女子大学で学ぶ意義」(5月15日(金)実施)でした。学長自身の口から、「カトリックの大学は、知識や知恵の伝授だけでなく、教育する側もされる側も互いに相手を尊重しながら向き合い、人としてどうあるべきか、人間性の涵養をめざす場所であること」、「日本がジェンダーギャップランキングにおいて、世界から遅れを取っているのは、女性自身がそれを容認してしまう意識の低さもあり、女子大学でリーダーシップを取る経験が貴重であること」などが、動画により力強く語られました。

また、受講生の数を制限し、密を避ける工夫を施したうえで、NDホールにて2種類の対面授業も実施しました(翌朝にはmanabaから動画の閲覧を可に)。それらは、6月19日(金)の茶道裏千家・茶道資料館副館長の伊住禮次朗先生による「茶道に学ぶ～日本文化の入り口」、7月3日(金)の社会保険労務士の山田真由子先生(本学卒業生)による「女性の権利とライフデザイン」でした。どちらの授業においても、新型コロナウイルスの影響による茶道や就職状況の現状や今後など、タイムリーな話題が盛り込まれ、集まった学生も非常に熱心に受講していました(伊住先生の講義は月刊誌『淡交』9月号に掲載予定)。

なお受講生は、本学の教職員を中心とした方々にメールによるお礼文書を書きました(昨年度までの手紙での礼状から、メールでの礼状に変更)。今後みなさまのところに礼状が届きました際には、ご返信いただき、学生とのコミュニケーション(対話)を楽しんでいただけたら幸いです。

自校教育に関連する以下の3種類の紙芝居風スライドは、短時間でノートルダムの歴史や今を知ることができる内容です。ND教育センターのWeb(<https://www.notredame.ac.jp/ndec/>)からもリンクしていますので、よろしければご利用ください。

●「聖母マリアの一生とノートルダム(シスタージョアンナ徐)」

2020年5月22日(金)実施・13スライド

[https://www.notredame.ac.jp/~](https://www.notredame.ac.jp/~tyoshida/2020/ND_20200522.pdf)

[tyoshida/2020/ND_20200522.pdf](https://www.notredame.ac.jp/~tyoshida/2020/ND_20200522.pdf)

●「自校を知り、自分の将来に役立てる(シスターベルナルド岩井)」2020年6月5日(金)実施・24スライド

[https://www.notredame.ac.jp/~](https://www.notredame.ac.jp/~tyoshida/2020/ND_20200605.pdf)

[tyoshida/2020/ND_20200605.pdf](https://www.notredame.ac.jp/~tyoshida/2020/ND_20200605.pdf)

●「ノートルダムの世界ネットワーク(シスタージュディス鎌田)」

2020年6月12日(金)実施・38スライド

[https://www.notredame.ac.jp/~](https://www.notredame.ac.jp/~tyoshida/2020/ND_20200612.pdf)

[tyoshida/2020/ND_20200612.pdf](https://www.notredame.ac.jp/~tyoshida/2020/ND_20200612.pdf)

(ND教育センター 教授 吉田 智子)



茶道裏千家・伊住禮次朗先生の講義風景(淡交社、撮影)



社会保険労務士・山田真由子先生の講義風景

前期卒業式・学位授与式が執り行われました

開催日:2020年9月24日(木)

2020年9月24日(木)10時30分から、ユージニア館3階の聖堂にて前期卒業式・学位授与式が執り行われました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため列席者を制限し、マスク着用等の対策



を徹底した中での式典となりましたが、学部生12名に加え、本学初となる大学院博士後期課程修了生1名が本学を巣立ちました。

教職員や保護者が見守る中、本学伝統のキャップとガウンを身にまとった卒業生に、中村久美学長から卒業証書が手渡され、「カトリック精神のもとで学んだ『良心の声に忠実に生きる』ことを自覚し、これからも学び続ける姿勢をもち、社会や世界とのつながり方や自身の生き方に至るまで、常に自分で考え続けていかれることを期待します」との式辞が述べられました。

式典終了後はお世話になった教員との別れを惜しみながらも、晴れやかな笑顔で記念撮影をする様子が見られ、卒業生・修了生たちは未来に向かって新たな一歩を踏み出しました。

京都ノートルダム女子大学と滋賀短期大学附属高等学校との高大連携に関する協定を締結

開催日:2020年7月7日(火)

2020年7月7日(火)、京都ノートルダム女子大学と滋賀短期大学附属高等学校は、高大連携に関する協定の締結、調印式を執り行いました。

高大連携は、大学と高校との教育交流を通じて、高校生に新たな学びの場を設けることにより、高校生が各自の進路選択の一助とするほか、自己実現のために努力する姿勢を養うことを意図しています。

本協定では、教育に関する情報交換や協議はもとより、大学入学前教育や本学教員による出張授業の実施、大学授業科目や公開講座への高校生の受け入れ、推薦入学の促進等、両校にとって相互に有益な連携事業を行います。

協定書の締結・調印式にあたっては、学長と校長の挨拶を交

換した後、厳かに調印式が行われ、今後の高大連携事業の可能性について確認を行いました。



(株)ノーリツ・(株)電通・京都市上下水道局との連携活動「おふる部」

福祉生活デザイン学科では、(株)ノーリツ・(株)電通・京都市上下水道局と産官学連携活動を行っています。「おふる部」とは、おふる離れが進む若者へ、おふるの魅力や情報を発信し、おふる好きな人を増やす活動です。

学科から5名の有志メンバーが集まり、2019年11月から3回にわたり本学で(株)電通の葛原講師からライター研修を受けました。記事のネタ探しから専用ソフトを使用して文章作成する方法、また、記事の引用の方法など教わり、社会に出て役立つ実践力を身につけています。学生の書いた記事はおふる部のWebサイトに掲載されています。

また、2019年12月には「神戸べっぴんおふる学校」が開催され、学科の竹原広実教授が市民向けに講演を行い、その後のワークショップ活動では他大学のおふる部や自治体水道局職員と記事のチームライティングに挑戦しました。

京都市上下水道局とのイベント企画なども予定していますので、今後の活動にご注目ください。



▼おふる部Webサイト



キャリアセンター

キャリアセンターからのお知らせ

新型コロナウイルス感染症の影響で、就職活動にも大きな変化がありました。学生たちにとっては思うような活動ができず歯痒い場面もありますが、オンライン化の加速により、京都にいながら遠方の説明会に参加できたり、選考を受けられたりと、新たな出会いも広がったことと思います。

キャリアセンターでは、オンライン・オフラインでの対応を可能な限り併用し、学生の皆さんをサポートできるよう努めております。Web個人面談、Web面接練習、オンライン窓口の開設、ガイダンスの配信など、全学部・全学科の皆さんにご利用いただけるサービスを提供しています。

就職活動においても、定期的に学生にコンタクトを取り、個々の状況を把握しながら粘り強くサポートしております。小規模大学の強みを生かし、“顔が見える”からできる求人マッチングや就職支援機関との連携を強化し、2019年度は就職率98.6%となりました。イベントの開催や個々へのサポート体制は整えておりますが、何よりそれに応えてくれる学生あっての実績です。ぜひこれからもキャリアセンターのサービスや情報をご活用ください。

◆CareerNavi:

大学へ届く求人情報やインターンシップ情報などを閲覧できます。

<https://uc-student.jp/notredame/>

◆キャリアセンターHP:

キャリアセンターのサービス全般を紹介しています。

<http://www.notredame.ac.jp/careercenter/>

◆キャリアセンターTwitter:

大学やキャリアセンターの日々の様子を配信しています。

https://twitter.com/nd_career

(CareerNavi)



(HP)



(Twitter)



ND教育センター

ND教育センター学習サポートのご案内

●英語多読 Extensive Reading

無理をせずスラスラと読めるレベルから始めて徐々にレベルをアップしていくことで、日本語に訳さず英語を英語のまま理解する“英語脳”が養われ、4技能(Reading, Writing, Listening, Speaking)が向上する英語多読を推奨しています。

多読本は図書館で貸出しています。また、一部、ND教育センター事務室でも貸出可能です。

＜多読三原則＞ 参考:SSS英語多読研究会

- ①辞書は引かない(引かなくてもわかる本を読む)
- ②わからないところは飛ばす
- ③つまらなくなったらやめる(無理はしない)

＜多読のコツ＞

ちょっとした時間に、楽しく読むことが大切。まずは、“読めた”という経験をたくさん積み重ねていきましょう。

＜多読の記録＞

読んだら記録を忘れずに。「記録ノート」はND教育センター事務室でお渡しします。

●オンラインサポート「文章作成の基礎づくり」

ND教育センターでは、manabaを使用したオンラインサポート「文章作成の基礎づくり」を行っています。センターが提供する文章作成に関する課題に学生が取り組むことにより、苦手意識を克服し、段階的に文章作成の基礎を身につけていきましょう。

●英語スキルアップポイント

英語力向上に関するプログラムやイベントなどに参加して英語スキルを高めよう。取得ポイントに応じて、TOEIC受験費半額補助あるいは参考書購入補助費(図書カード)に交換できます。(英語母語話者を除く)ポイントカードはND教育センター事務室でお渡しします。

ND教育センター オリジナルサイト・Twitter

オリジナルサイト

<https://www.notredame.ac.jp/ndec/>



Twitter

https://twitter.com/ndeducation_c



行事予定

2020年 10月	1日(木) 2日(金) 8日(木) 15日(木) 16日(金) 17日(土) 23日(金) 23日(金) 24日(土) 25日(日) 26日(月)	派遣留学プログラム説明会(セメスター、姉妹) 図書館:夏期長期貸出返却期限日 グローバル英語コース留学説明会Ⅱ 【英文】④卒論草稿提出締切(17:00) 【国日】④卒論草稿提出締切(17:00) 補講日 ミニNDfes準備 (授業なし) ミニNDfes ミニオープンキャンパス(入試相談会) 履修中止届出期間
11月	2日(月) 2日(月) 7日(土) 11日(水) 11日(水) 18日(水) 20日(金) 21日(土) 23日(月) 26日(木)	【心理】④卒業研究・本題目提出締切(17:00) 【心理】④卒業論文ラフコピー・本題目提出締切(17:00) (学内立入禁止)指定校推薦入試 【こども】②ゼミ分属説明会(5講時) 【心理】②心理学演習ゼミ選択説明会(16:40～) (終日授業なし) TOEFL ITPテスト(希望者対象16:35～) 補講日 (学内立入禁止)公募制推薦入試Ⅰ期 【国日】①②分属説明会
12月	1日(火) 1日(火) 4日(金) 8日(火) 9日(水) 10日(木) 10日(木) 10日(木) 12日(土) 12日(土) 15日(火) 19日(土) 19日(土) 22日(火) 23日(水) 23日(水) 24日(木) 25日(金) 25日(金) 28日(月) 29日(火)	【英文】④卒論提出締切(17:00) 【福生テ】④卒論提出締切(12:00) 【心理】④認定心理士説明会(16:40～) (創立記念日) 【福生テ】②ゼミ選択説明会 【国日】④卒論提出締切(17:00) 【こども】④卒論提出締切(17:00) 図書館:冬期長期貸出開始 (学内立入禁止)公募制推薦入試Ⅱ期 補講日 【心理】④卒業研究・要約集用原稿・発表資料提出締切(17:00) 【英文】①②③と④GE生英語英文学科指定TOEIC-IP 補講日 【心理】④卒業論文・要約集提出締切(17:00) 【福生テ】④卒論口頭試問 12月の授業最終日 窓口事務取扱休止 冬期休暇 (クリスマスの休日) 窓口事務取扱休止 年末年始一斉休業(窓口事務取扱休止)
1月	4日(月) 9日(土) 9日(土) 9日(土) 12日(火) 13日(水) 14日(木) 15日(金) 16日(土) 20日(水) 23日(土) 23日(土) 26日(火) 27日(水) 28日(木) 29日(金) 1月末	授業再開 TOEIC IPテスト(希望者対象9:15～) 【国日】④口頭試問 【心理】④卒業研究発表会 図書館:冬期長期貸出返却期限日 【福生テ】①資格説明会 【福生テ】③卒論テーマ届出締切(12:00) 【心理】④認定心理士説明会(16:40～)、社会調査士説明会(認定心理士説明会後) 補講日 【こども】③④卒業論文発表会(3講時) 補講日 図書館:春期長期貸出開始 後期授業最終日 【福生テ】④③②卒業研究発表・懇談会 定期試験期間 ※定期試験のほか補講を行うことがある。 (学内立入禁止)一般入試Ⅰ期 【心理】④卒業論文口頭試問(～2月初旬まで)
2月	1日(月) 6日(土) 13日(土) 19日(金) 27日(土)	【こども】③卒論題目提出締切(17:00) 春期休暇開始(3月31日(日)まで) 大学院入試Ⅱ期 (学内立入禁止)一般入試Ⅱ期 公開講座「こどもとの対話から始まる特別支援教育」
3月	1日(月) 1日(月) 1日(月) 11日(木) 13日(土) 15日(月) 22日(月) 23日(火) 28日(日) 31日(水)	後期追試験(1～3年次生) 卒業予定者再試験 転学部・転学科試験 卒業式練習(卒業予定者)・12(金) 卒業式・学位授与式・卒業祝賀パーティー (学内立入禁止)一般入試Ⅲ期 【全】新②③④仮登録科目1次募集期間 【全】新②③④2021年度定期健康診断(3/24(水)まで(予定)) オープンキャンパス 編入生オリエンテーション(午前)、外国人留学生オリエンテーション(午後)

※①・②・③・④については、学年の数字を表します。(例:①→1年次生、②→2年次生)
※掲載されている情報は9月時点のものです。

2019年度卒業生就職実績について

本学では、例年3年次より就職・キャリアガイダンスでのインプットが本格的に始まります。就職活動についての基礎固めから、グループディスカッション・グループ面接講座・Virtual Recruit(模擬就活)でのアウトプット、企業採用担当者との座談会やセミナーを通して、キャリア意識のフェーズが上がります。また、ここ数年、キャリアサポーターとして有志の4年次生

内定者が、自身の経験を生かして下級生のために就職活動をサポートするイベントも行っています。

昨年度も多くの卒業生が、これらのガイダンス・セミナー・イベントを経験し、広い視野を持ちバラエティーに富んだ進路を実現していきました。

建設・不動産	(株)エリツホールディングス (株)ハウスドゥ (株)日本アーク
製造	ヒガシマル醤油(株) たねやグループ (株)鼓月 フォスター電機(株) コタ(株)
情報通信	トランスコスモス(株) (株)スタジオ雲雀
運輸・郵便	ANAウイングス(株) ANA関西空港(株) 羽田空港サービス(株) マカオ航空 カタール航空 日本貨物航空(株)
卸売・小売	関西日立(株) SB C&S(株) (株)良品計画 (株)プラス・カーサ (株)赤ちゃん本舗 (株)アインホールディングス 日産大阪販売(株) コーセー化粧品販売(株) イオンリテール(株)
金融・保険	(株)みずほフィナンシャルグループ 京都中央信用金庫 京都信用金庫 大阪信用金庫 (株)関西みらい銀行 あいおいニッセイ同和損害保険(株) 三井住友海上火災保険(株)
学術研究、専門・技術	(株)アートブレインカンパニー

宿泊・飲食	(株)森ビルホスピタリティコーポレーション アパグループ 裕進観光(株) ベルジャヤ京都ディベロップメント(株) (株)フクナガ (株)トリドールジャパン
生活関連サービス・娯楽	(株)近畿日本ツーリスト関西 バリューマネジメント(株) (株)白洋舎 (株)トライストーン・エンタテイメント KCJ GROUP(株)
教育、学習支援	京都市教育委員会(小) 京都府教育委員会(小) (学)青叡舎学院(高校家庭) (一社)星槎グループ(中学家庭)
幼稚園、保育園	豊中市役所 東近江市役所 (学)復活学園 (学)若竹学園 (学)東大寺学園 (福)稲荷学園 (福)どんぐり会
医療、福祉	(医)徳洲会 (医)愛仁会 洛和会ヘルスケアシステム (福)京都老人福祉協会 (福)滋賀県障害児協会
複合サービス	日本郵便(株) 京都市農業協同組合
進学	京都ノートルダム女子大学大学院 立命館大学大学院 同志社女子大学大学院

編集後記

2020年は世界中が予想もしなかった事態に見舞われ、前期は本学においても、門を開き、学生を学舎に迎え入れることが難しい状況でした。そのような中、学生は慣れない「オンライン授業」で悪戦苦闘しながらも懸命に勉学に励み、また教員も質疑やレポートから伝わる「学生の熱量」を受け止め、新しい学びの形を模索してきました。4月末に実施したオンライン授業に関するアンケートでは、学生の回答を、学生が分析し、教員向けに「提案」としてまとめてくれました。それは、大学生活を心待ちにしていた新入生の目線に立った、上級生の心配りが端々に読めるものでした。苦境の中でも他者を思い、前向きになれる心のありようを、在学生自らが体現してくれたことは、ノートルダムの学生ならではの優しさであると感じています。一日も早く世界が平穏になり、大学にも日常が戻ることを祈りつつ、後期も学生とともに、学びの歩みを進めてまいりたいと思います。

(心理学科 薦田 未央)

●広報委員長 竹原 広実

●広報委員 木島 菜菜子、堀 勝博、佐藤 純、薦田 未央、太田 容次

京都ノートルダム女子大学 大学報

NDキャンパス通信 Vol.13

2020年10月1日

編集／広報委員会

発行／京都ノートルダム女子大学 広報課

〒606-0847 京都市左京区下鴨南野々神町1番地

URL: <https://www.notredame.ac.jp>

E-mail: information@ml.notredame.ac.jp

印刷／株式会社ティ・プラス

本誌は京都ノートルダム女子大学保護者会の資金援助を一部受けています。